

「ファイナンシャル・ウェルビーイングと金融リテラシーに関する意識と実態調査」(2024年)より

# 働く人のファイナンシャル・ウェルビーイング 向上のカギは“資産の年収倍率”



2024年12月  
三井住友信託銀行  
三井住友トラスト・資産のミライ研究所

- (1) 調査名: 「ファイナンシャル・ウェルビーイングと金融リテラシーに関する意識と実態調査」(2024年)
- (2) 調査対象: 全国の18～69歳 ただし関連業種(金融、調査、マスコミ、広告)従事者を除く  
本レポートでは、職業について、「会社員(一般社員)」「会社員(管理職)」「公務員・団体職員」「派遣・契約社員」「パート・アルバイト」と回答した者を対象に分析
- (3) 調査方法: WEBアンケート調査
- (4) 調査時期: 2024年1月
- (5) サンプルサイズ: 6,091
- (6) サンプルの属性(年代別)

18-29歳	1,120
30-39歳	1,208
40-49歳	1,533
50-59歳	1,506
60-69歳	724

# ファイナンシャル・ウェルビーイング(FWB)に関する調査

- 本調査では、ファイナンシャル・ウェルビーイング(経済的(自身の資産管理・資産形成・運用)に良い状態であること)に関する主観評価(現在スコア・将来スコア)をヒアリング
- 「現在に対する満足度」が7以上で「将来に対する満足度」が8以上の回答者を、ファイナンシャル・ウェルビーイング度が「**高い**」、「現在に対する満足度」と「将来に対する満足度」のどちらもが0～4の回答者を「**低い**」とし、そのどちらでもない回答者を「**中ぐらい**」として分類

## 「ファイナンシャル・ウェルビーイング度」の定義

### 【現在に対する満足度】・・・(A)

あなたは、以下の項目について、**現在**どの程度満足していますか。  
「経済的(自身の資産管理・資産形成・運用)に良い状態であること」

※「0」が最低満足度、「10」が最高満足度としてお答えください。

### 【将来に対する満足度】・・・(B)

ご自身の「5年後」の生活を少し予想してみてください。  
あなたは、**5年後**どの程度満足しているだろうと思いますか。

※「0」が最低満足度、「10」が最高満足度としてお答えください。

ファイナンシャル・ウェルビーイング度	条件
高い	(A)が7以上かつ (B)が8以上
中ぐらい	「高い」「低い」以外の該当者
低い	(A)が4以下かつ (B)が4以下

## 1. 金融資産があればファイナンシャル・ウェルビーイング(FWB)度は上がるのか？

- 保有する金融資産が多いほど「FWB度が高い」人が多い。一方で、金融資産が少なく(多く)ても「FWB度が高い(低い)」人が一定割合存在する
  - 年代が上がるにつれて金融資産額は増える傾向にあるが、FWB度は年代による差があまり見られない
  - 金融資産額が2,000万円未満の層は、同じ金融資産額でも、年代が上がるほどFWB度は低くなる傾向
- ⇒FWB度を維持するには、年代が上がるに従い、金融資産額を増やす必要がある

## 2. FWBを高めるための金融資産額の目安は、年収の何倍か？

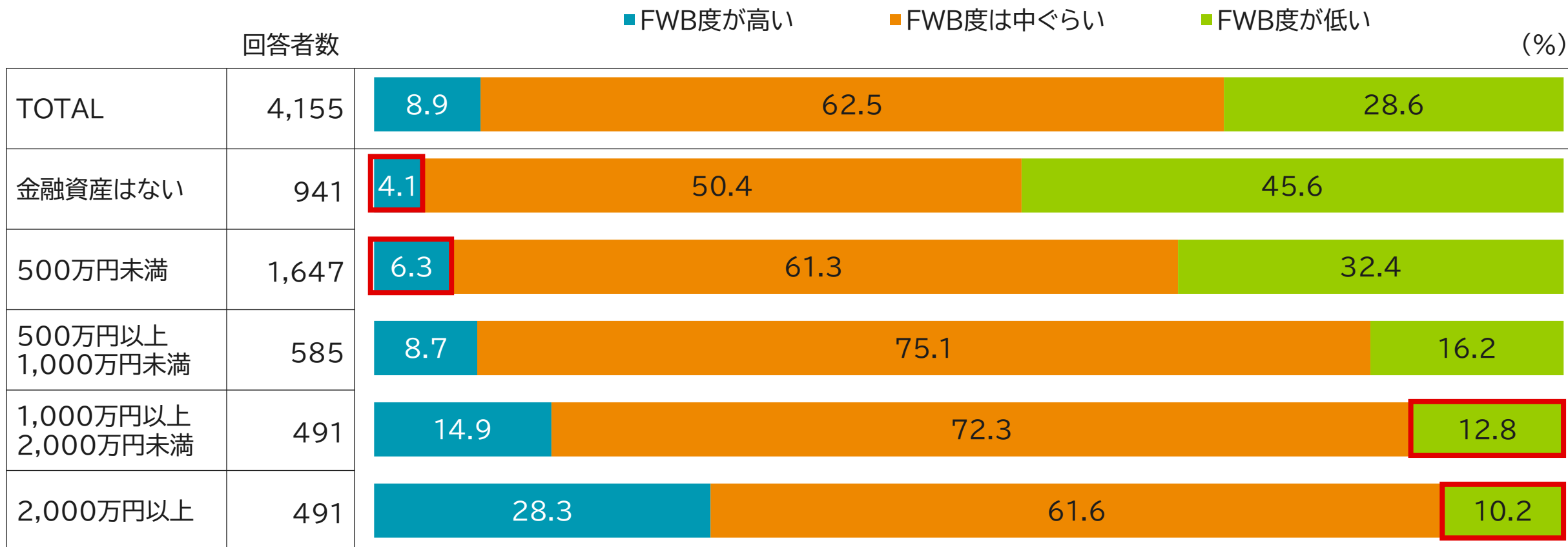
- 資産形成が収入に対しどのペースで実践できているか、“**資産の年収倍率**(=現在の保有金融資産が年収の何倍か)”のスコアを分析
- 「FWB度が高い」と答えた人の“**資産の年収倍率**”は、50代に向けておおよそ3～5倍程度

# 1 資産があればファイナンシャル・ウェルビーイング(FWB)度は上がるのか？

---

- 保有金融資産が多い方が、FWB度が高い人の割合も高くなる傾向がある
- 一方で、金融資産が少なくてもFWB度が高い人、金融資産が多くてもFWB度が低い人が一定数存在

## 図表1 保有金融資産額別 FWB度の人数分布

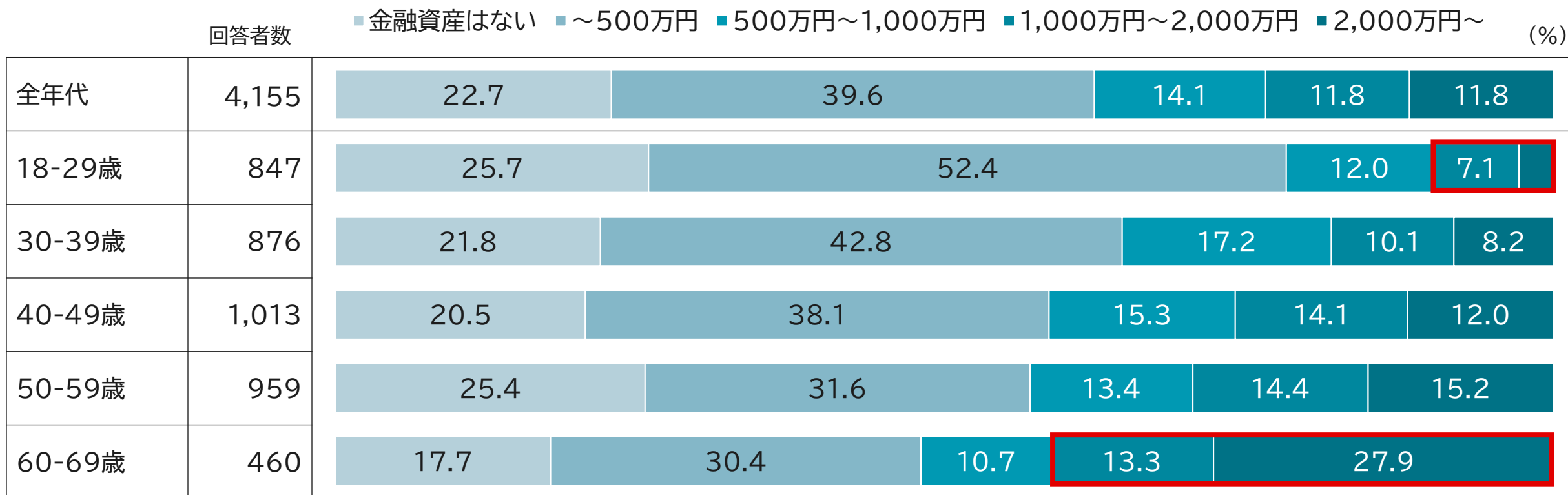


\*わからない、答えたくない除く

- 20代以下は約8割が「500万円未満」だが、年代が上がるにつれて、金融資産額は増加
- 「1,000万円以上」の比率は、20代以下で1割未満だが、60代は約4割を占める

## 図表2 年代別 保有金融資産額

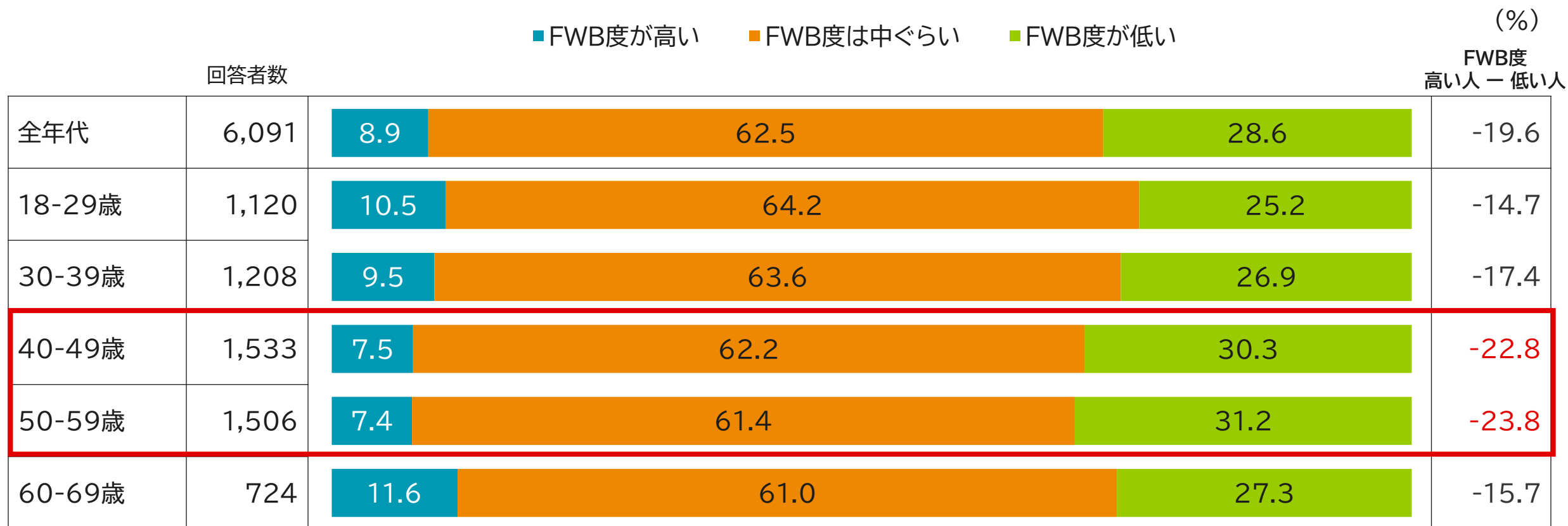
(〇円以上～〇円未満)



\* わからない、答えたくない除く \* 5.0%未満はグラフ上の数字表記を省略

- 保有金融資産額は年代によって異なるものの、FWB度は年代によって大きな差はあまり見られない
- 相対的に40代・50代はFWB度が高い人が少なく、FWB度が低い人が多い傾向

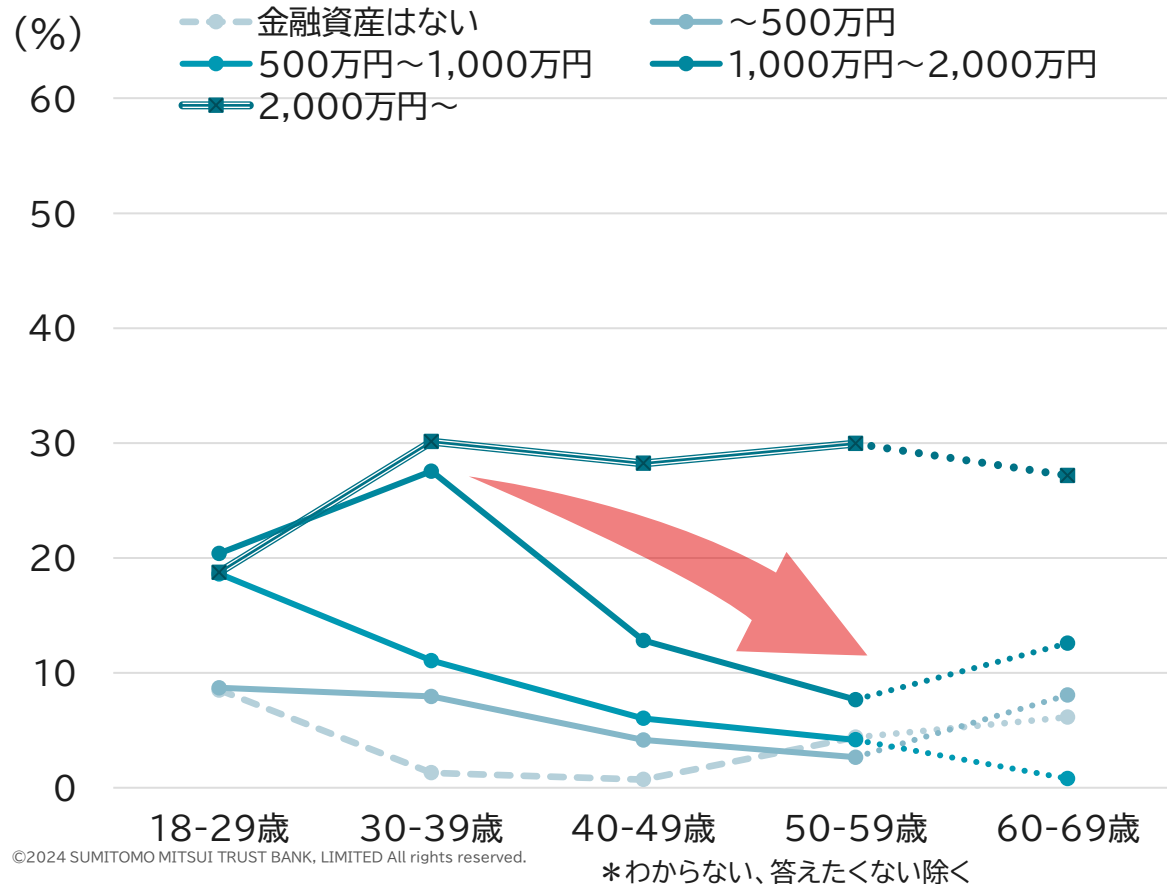
## 図表3 年代別 FWB度の人数分布



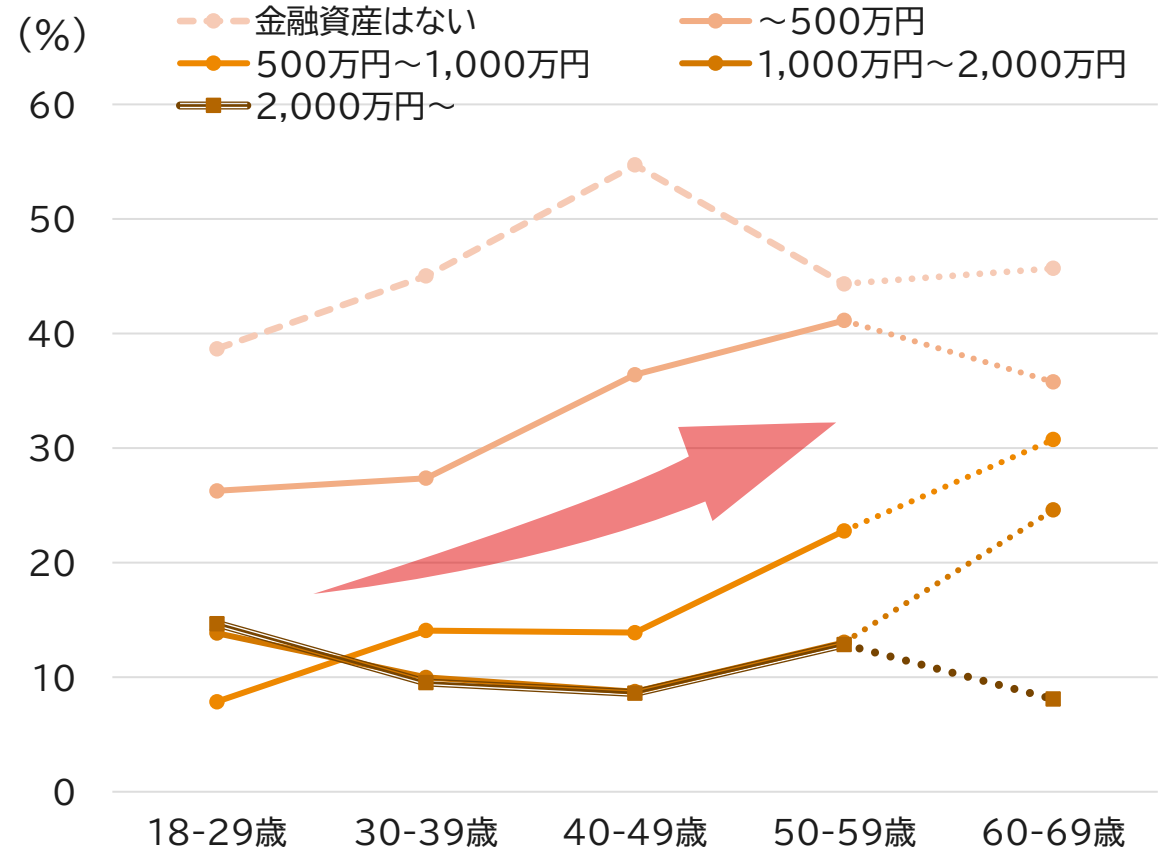


- 2,000万円未満のどの金融資産保有層でも、FWB度が高い人の割合は、年代が上がるにつれて下落傾向（60代を除く）
  - 2,000万円未満のどの金融資産保有層でも、FWB度が低い人の割合は、年代が上がるにつれて上昇傾向（60代を除く）
- ⇒FWB度を維持するには、年代が上がるに従い、金融資産額を増やす必要がある

## 図表4 「FWB度が高い」と答えた人数割合



## 図表5 「FWB度が低い」と答えた人数割合



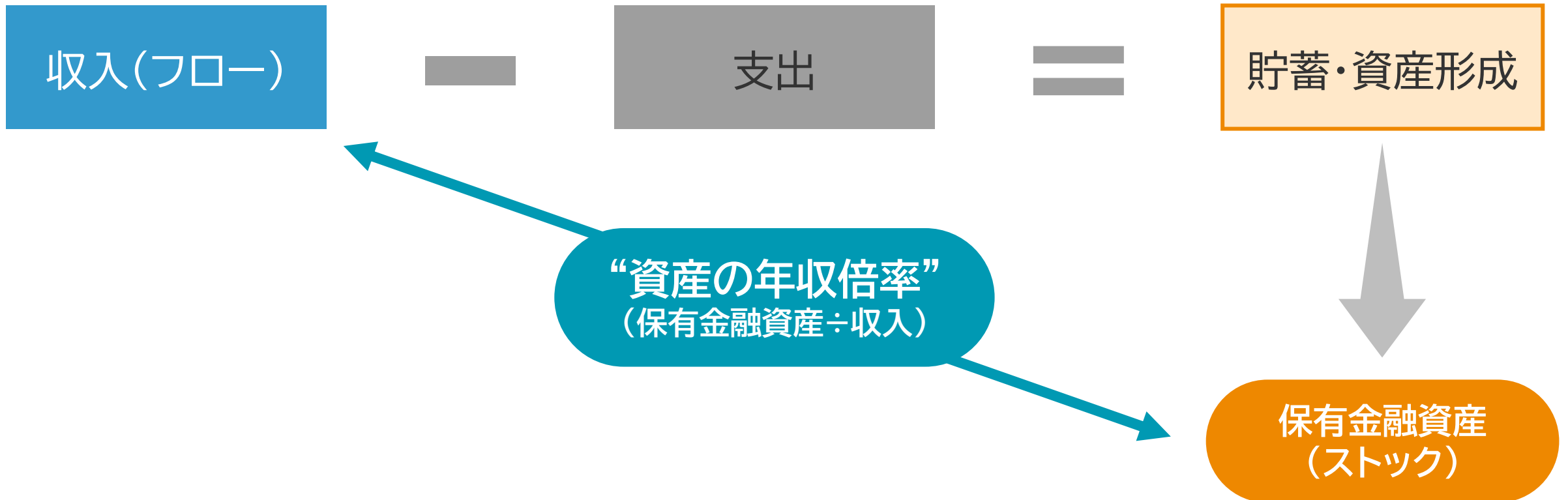
## 2 FWB度を高めるための金融資産額(ストック)の目安は、年収水準(フロー)の3～5倍

---

## 資産形成の実践力を示す“資産の年収倍率”

- 一般的に、「収入」から「支出」を除いた金額が「貯蓄・資産形成」に回り、「保有金融資産」が増える
- 収入が多いほど資産形成ができるはずだが、収入が多いほど生活水準も高いことが想定される
- ここでは、保有金融資産÷本人収入を「資産の年収倍率」として算出し、FWB度と資産の年収倍率の関係を分析した

図表6 資産の年収倍率の考え方

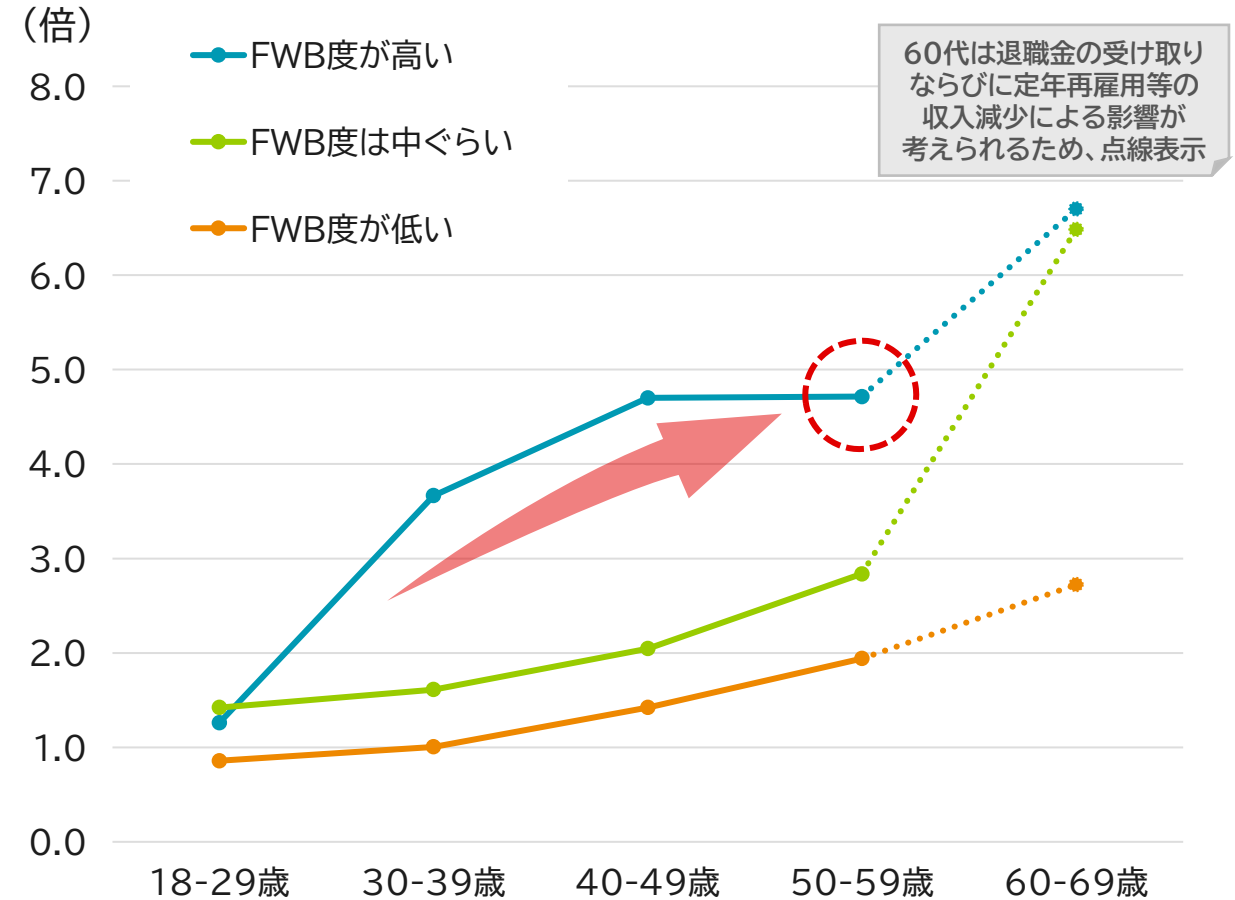


# FWB度が高い人/低い人は、収入に対してどれくらい資産を保有しているか ①

- 各年代において“資産の年収倍率”を算出。**平均値**をみると、FWB度が高いほど“資産の年収倍率”が高い
- FWB度が高い層は、50代に向けて年収の**約5倍**の資産を保有していることが分かる

図表7 FWB度別の“資産の年収倍率” ～平均値～

	FWB度が高い	FWB度は中ぐらい	FWB度が低い
18-29歳	1.3倍 (86人)	1.4倍 (507人)	0.9倍 (216人)
30-39歳	3.7倍 (92人)	1.6倍 (542人)	1.0倍 (206人)
40-49歳	4.7倍 (79人)	2.0倍 (615人)	1.4倍 (277人)
50-59歳	4.7倍 (76人)	2.8倍 (544人)	1.9倍 (274人)
60-69歳	6.7倍 (59人)	6.5倍 (261人)	2.7倍 (123人)

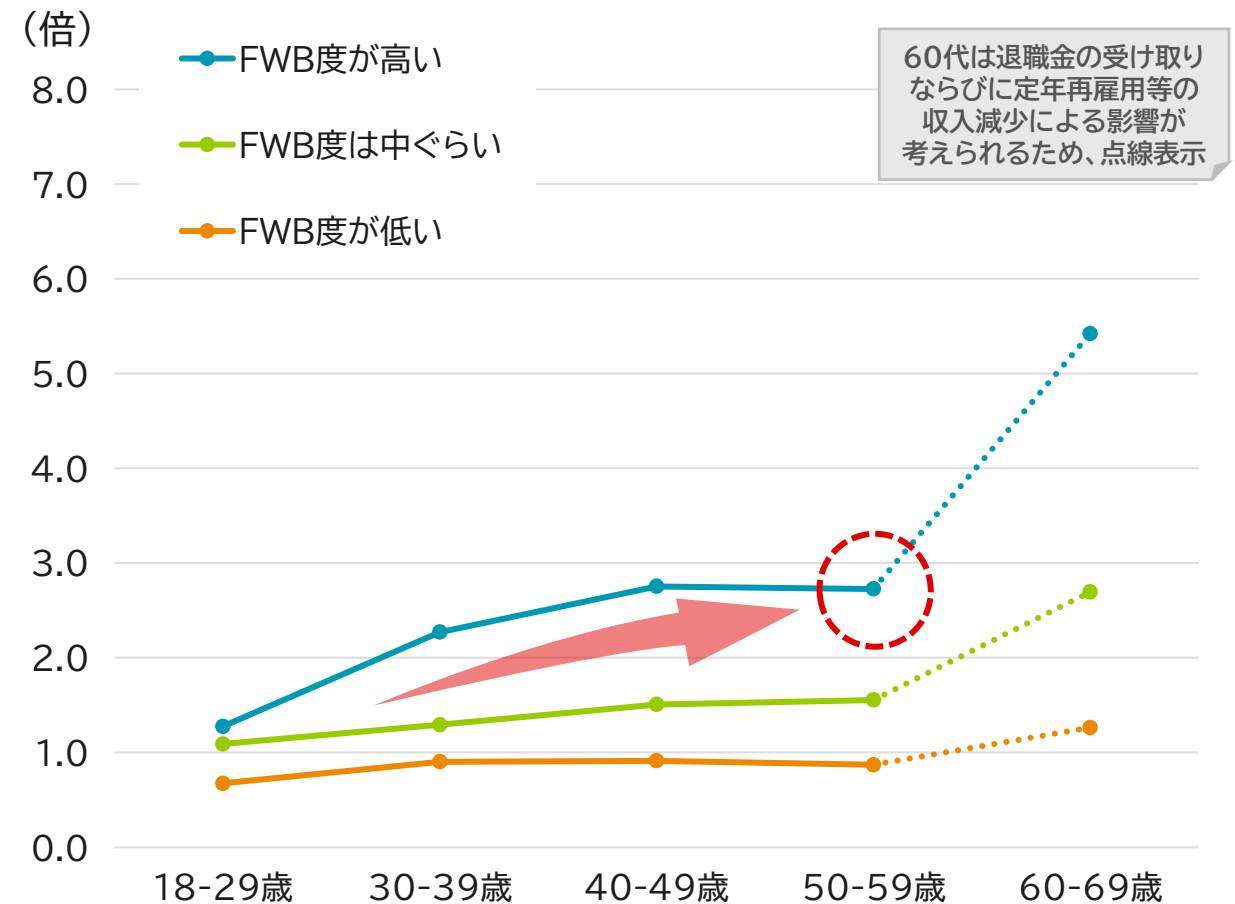


\*わからない、答えたくない除く

- “資産の年収倍率”の**中央値**を算出すると、FWB度が高い層は、50代に向けて年収の**約3倍**の資産を保有している
- FWB度が低い人は、30代～50代で“資産の年収倍率”が1.0倍未満、かつ年齢に関わらずほぼ横ばい

## 図表8 FWB度別の“資産の年収倍率” ～中央値～

	FWB度が高い	FWB度は中ぐらい	FWB度が低い
18-29歳	1.3倍 (86人)	1.1倍 (507人)	0.7倍 (216人)
30-39歳	2.3倍 (92人)	1.3倍 (542人)	0.9倍 (206人)
40-49歳	2.8倍 (79人)	1.5倍 (615人)	0.9倍 (277人)
50-59歳	2.7倍 (76人)	1.6倍 (544人)	0.9倍 (274人)
60-69歳	5.4倍 (59人)	2.7倍 (261人)	1.3倍 (123人)



\*わからない、答えたくない除く

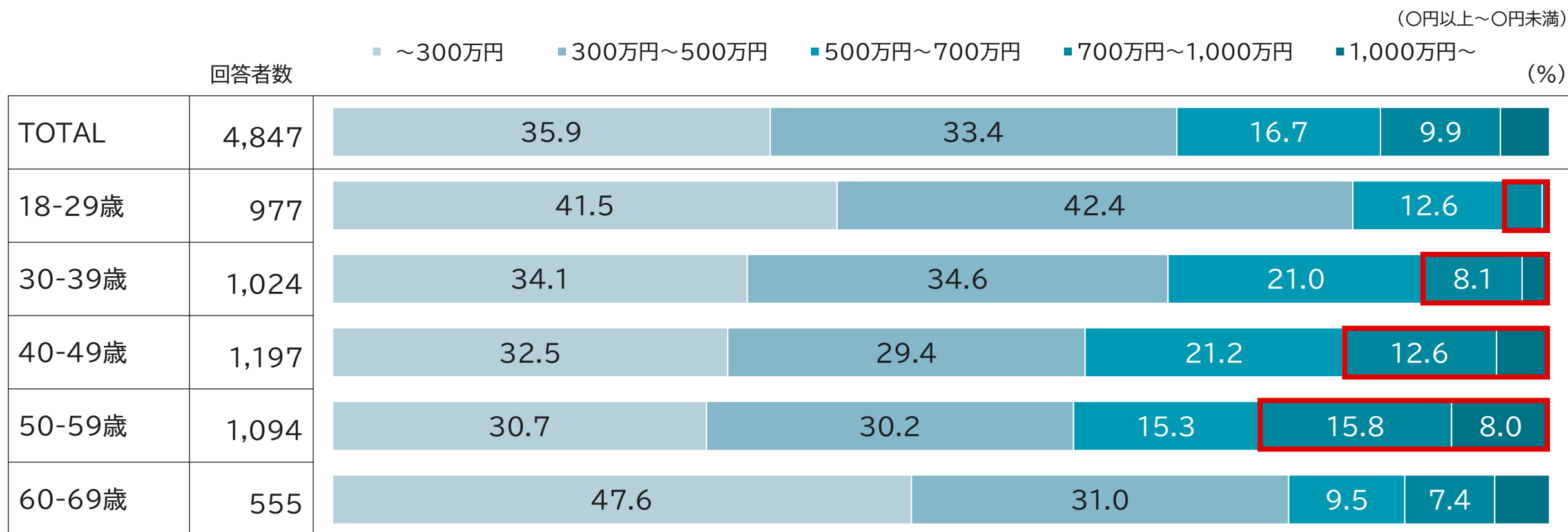


## Appendix

---

- 年収は年代が上がるにつれて上昇傾向
- 年代が上がるにつれ、700万円以上の高所得者が増える

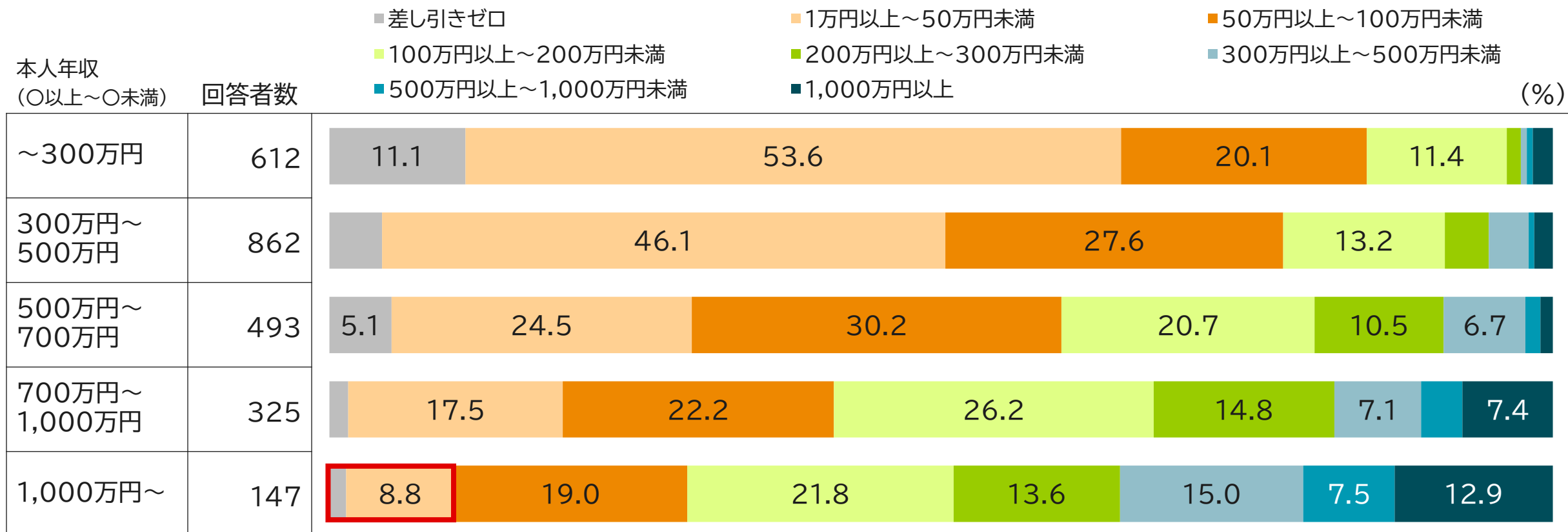
## 図表9 年代別 個人年収水準



\*わからない、答えたくない除く \* 5.0%未満はグラフ上の数字表記を省略

- 個人の年収が高いほど、年間の資産形成額が多い傾向
- しかしながら、年収1,000万円以上であっても年間の資産形成額が50万円未満である割合も約1割

## 図表10 個人年収別 年間資産形成額

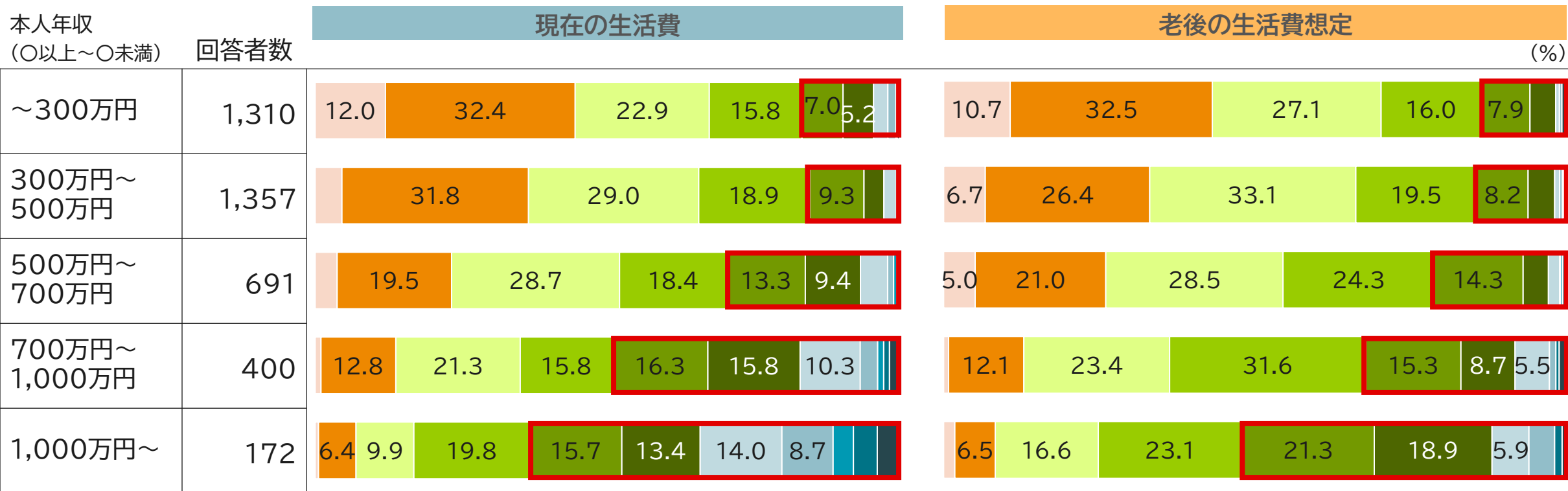


\* わからない、答えたくない除く \* 5.0%未満はグラフ上の数字表記を省略



- 個人の年収が高いほど、現在の生活水準も高く、老後の生活水準の想定も高い傾向がある
- 収入が多くても、生活費も高くなることで“資産形成ができていない”可能性がある

## 図表11 個人年収別 現在の生活費と老後生活費の想定(月額)

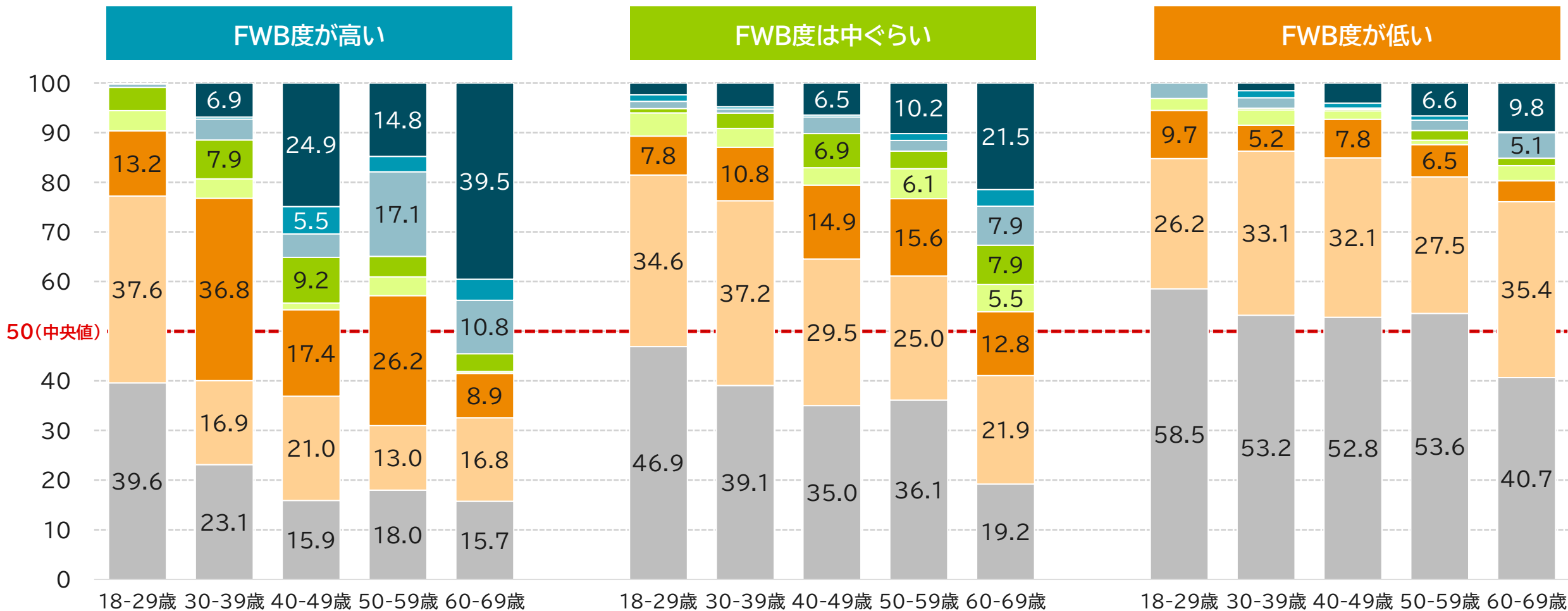


\* わからない、答えたくない除く      \* 5.0%未満はグラフ上の数字表記を省略  
 ©2024 SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

## 図表12 FWB度別の“資産の年収倍率”（分布）

（倍率は〇倍以上～〇倍未満）

■ ~1.0倍 ■ 1.0~2.0倍 ■ 2.0~3.0倍 ■ 3.0~4.0倍 ■ 4.0~5.0倍 ■ 5.0~6.0倍 ■ 6.0~7.0倍 ■ 7.0倍～



- 本資料は、情報の提供を目的として作成しており、具体的な対応についてはお客様のご判断により行っていただくこととなります。お客様のご判断によって行ったご対応の結果生じた損害につきましては、弊社は一切責任を負いません
- 本資料は、作成日において弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成したものであり、その情報の正確性・確実性について保証するものではありません。また、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます
- 本資料に係る一切の権利は、他社資料の引用部分を除いて三井住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。本資料の一部または全部を転載・複製する際は、弊社にご照会くださいますようお願い申し上げます

## ご照会先

三井住友信託銀行  
三井住友トラスト・資産のミライ研究所  
[mirai@smtb.jp](mailto:mirai@smtb.jp)

作成日:2024年11月29日  
564-24-2090